夕刊 二月三日發行
大祭日第一第三日曜休刊 定價 一ヶ月六十錢 一部二錢 郵税十五錢 廣告料 普通行六十錢 指定廿錢増 發行所 磐城新聞社 平町田町十六番地

拈華微笑

◇粒々辛苦の舊蔵末に借金の心配氣の毒な立場で彼はあるよ

◇燒石に水でも救濟資金が其迄に間に合へば結構

◇もと木に優る何とやら、第三校道路一条に決る

◇五十錢と米八合藝者一人の祝儀にも當らぬが使ひ様で斯ふ尊い

◇錦少年消防の珍考案。東京に近ひ丈思ひつきに一日の長あり

戯歌十體

島田忠夫

加藤輝雄 和尚

墨ぞめの、朝寢法師ら、あからひく、十時に起き、大學へ、飯はみに行く、うらひさす、都のちまた、いで來ては、芝居の小屋に、もおもおと、牛笛鳴らす、とむらひは、めんどくさいと、酒くさく、カフエータイガーに、申さく法師。

原 勝朝臣

鳥がなく、あづまの國見さくるや、原勝朝臣しらぬ火、つくしの隣長崎に、生れしゆえか唐人形、おちやさん、なして、面米の朝臣。

齋藤茂吉 先生

しやくかうの、若おもて、あらたまの、太ぎもも、歌つくり、くすしして、つゆ霜の白くなりましき、かしこき口ひげ。

高久晩霞 先生

みちのくに、雪は降るがね、たうとくも、白くふるがね、ふる雪の、白きをまじへ、くすしして、歌作り、にひむろ、木兎のいほりに、口ひげを、よみてゐまさむ、あやに静けさ。

市川健次 君

土なぶる、百姓をとこ畠おこし、田づくり、麥まき、芋植ゑ、柴刈る男、詩つくり、歌よみ、トルストイ、藤村茂吉、フーベルと讀みぬくをとこ、肥くさき男。

茶木七郎 君

さがみの海、横須賀の軍ぶね、吾がものの如大きなる、顔ぞすれ、その顔、澁うちわなすはた、櫟葉いろぞなす

尻野ヤス子 君

うち日さす、ふるき京鴨川の、みづくみて、をさめさび、うつくしいらつ女や、歌がたり詩がたり、負くれば、むづかしき、數學云ひて吾をへこます、ますらを吾れを。

盛 菊枝 君

きさらぎの、しら梅や白玉の、歌つくる、はしきやし歌。

原田小太郎 君

かうかうと、白き鷲、ましろくぞ、かがやきて、うつくしく、首のべて、葦がくり、さばしる、鮒捕るか、しがらみ、落ちひそむ鮒捕るか、あらず、白鷺の、身もほそく、燒いも喰ひて、童謠つくる、あはれ小太郎。

平林武雄 君

ぼんそある、まどもせるとし、日くるれば、ほれぼれと、遊びゐむ絶えて、詩もつくらねわが、ぼんそある、むつしう。

雪落し(二)(童謠詩)

原 勝

雪あと晴れて
柿の木に
山の鳩など
來て遊ぶ
新立山の
雪落し
父さ迎ひに
行かうかよ

細徑さ
人下り
妹小さくて
ころぶから
雪山光る
山の甍
つらら妹に
もつて行から。

ラヂオ

仙臺 JOHK

……四日(水曜)……

△前七、〇〇 七、三〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
△九、一〇 料理献立 一、獨活豚肉三ツ葉のりんご和へ 二、春菊の芥子和へ 東北女子職業學校發表 日用品値段
△九、三〇 一〇、二〇A 經濟市況
△一〇、三〇 一一、〇〇A 家庭講座(節分の話)北野博美
△一一、四〇A 經濟市況
△正午 時報
△後〇、〇五 〇、四〇A 獨唱とヴアイオリン獨奏
△〇、四〇A 全國ニユース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇 一、五〇A 經濟市況
△二、〇〇 二、三〇A 家庭大學講座(女性のための哲學)『第三講』日本大學教授松原寛
△二、三〇A 經濟市況
△三、四〇 氣象通報(積雪量)
△三、五〇 經濟市況 ニユース
△四、〇〇A 全國ニユース
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇 六、三〇A (子供の時間)お話(節分と初午)テキスト一六ページ 文學博士笹川臨風
△六、三〇 七、〇〇A 英語講座(初等科五)岡倉由三郎
△七、〇〇A 全國ニユース(官廳ニユースを含む)ニユース 氣象通報 番組豫告 告知事項
△七、二五 七、五五B 講演(米及び稲に就て)農學博士近藤萬太郎
△八、〇〇 八、三〇A 節分會撒豆式状況(節分の夕)目黒不動尊本堂より中繼 三塙大護摩供殿修撒豆式(護摩修業中に行ふ)大導師加藤觀海外一山大衆
△八、三〇 九、〇〇A 照葉狂言(三段主葵節分)
△九、〇〇 九、三八A 掛合噺(豆撒き)豐年齋梅坊主一座
△九、四〇A 時報 全國ニユース 氣象通報 番組豫告 告知事項

時代警句 (獨歩)

○人生は戰爭也、戰を宣告したる上は、書に向つては書を征服し事業に向つては事業を征服する迄止む可からず、何物、何事何人に對しても討究の覺悟を以て戰ふべし、死するとも勝つの覺悟あれ(欺かざるの記)

○五人と爭はゞ先づ其の一人を仆せ。然る後に他の一人、他の一人、斯くすれば他の二人は戰はずして自ら潰えん(病床錄)

―(今月今日)―

△日本支那間の海底に電信敷設(明治四)△本阿彌……光悦歿す、京都鷹ケ峰に住す書蒔繪の技に秀で德望殊に高し(寛永一四)△武田耕雲齋斬らる、水戸藩の人傑で尊王攘夷の領袖その事績は天狗黨、筑波山事件として人に知らる(元治二)△霧島山噴火―(天永三)△外船の見物を禁ず(安政元)

講談 赤穂安兵衛 (一六三)

東京 桃川燕二演
村田月光畫

吉良の屋敷の前にはズーッと深い溝が堀つてある、蜜柑の荷を其處へ投り出して置いて安兵衛、前をまくり溝の中へ立小便をし様とした、過ちであるか態としたのか小便をし様とした拍子に溝の中へコロ〳〵と轉け込む……『あゝ痛へ〳〵、誰だ人が小便をし様としたところを後から突きやァがつたのは誰だ、勘辨ならねえ、迂奴どうするか見ろ』と大聲を上げる、是れを聞きつけた吉良の門番……『なんだ大層大聲を上げる、妙な奴が居る、御同役どうしたのだらう』……『溝の中で怒鳴つてゐるが誰も相手は居ない、餘程變つた奴だな、行つて見よう!』……『御當家御門前では棄て置きにならない――オヤ〳〵是れは醉ッ拂ひ八百屋だ、よく過ちがない者だと思つてゐたが、遂々やつたな』……『是々早く上れ』……『何を云ひやがる、手前達二人で俺を突き落しやアがつたな、サア手前達が相手だ、殺すなら殺せ』……『誰が貴様などを落とすものか、貴様が勝手に落ちたのだ』……『嘘をつけ、俺が小便をしようとして前をまくると後から突きやアがつた、手前達が相手だ覺悟をしろ』……『亂暴な奴だ此儘にして置いて死にでも致せば係り合、小村手を貸してくれ』……『厄介千萬の野郎だ、二人では手に餘らう、オイ〳〵田島一寸來てくれ!』……『どうした』……『恐ろしい大きな野郎だ引上げなければならん』……『確乎押えて居ろ、よし來た、放しちやア不可んぞ、全體御當家を何處と心得る!』……『何御當家笑はしやがるが、いづれお屋敷だらう、箆棒めへ江戸に居て旗本や大名が恐ろしくて一日も生きてゐられるかへ、斯う見たところが小ッ旗本だらう、大層なことを吐かしやがるな、殿様は大方提灯張りか竹細工かの内職をして居やがるだらう』……『呆れた亂暴者だ、此ッ方へ來い』三人がゝりで安兵衛の醉ひドレをズル〳〵引摺りながら門番詰所の傍へ打込んだ、安兵衛は此處へ這入ると、グウ〳〵と高鼾――勿論これは本當に寢たのではありませぬ、心中……『締たり』と叫んで空鼾……『ゝて終やがつた何處の者だらうよく見掛けるが』……『ど處の者かな』なにしろ醉ひドレは罪が無い』……『夫れは然うと荷が放り出した儘である、取られると不可ぬから持込んで置かう』……『どこまで手數がかゝるか知れぬ、オヽ甘そうな蜜柑がある、澤山では惡いが二つ三つは好いだらう』……『これは餘祿だ此方へも二つ三つ呉れ』……『ウム馬鹿に甘い好い種だ本場のだらう』酷い門番で八百屋の籠から蜜柑を出して食つて居る、稍一時ばかり寢込んで居た安兵衛、最う好い頃と思つたのか……『オイ、咽喉がひつつく様だ、お吉水を一杯くんな、水だ水だ』……『ホゥ八百屋め氣が付いたか、是れ〳〵水を呉れさ』……『オー水だ』……『水だも無いもんだ飲みたければ勝手に飲め』……『ヤッこれは俺の家でねえ様だな』……『惚けるな目を覺せ』……『變だなテ』……『何が變だ』……『此處は何處の家だね』……『本所の松坂町だ』……『松坂町』……『我々共は當家の吉良上野介殿の門番だ、貴様が溝の中へ落込んで大聲を上げあげて騒いでゐる、棄て置けば水でも飲んで終ふ死ぬば勝手で構はぬが係り合になるが迷惑、三人で引上げて醉ひの覺めるまで止め置いた、有難く心得ろ』これを聞くと安兵衛眞ッさほになつて終ふ……『どうぞ御勘辨を願ひます、私は酒が大好物醉ひますると夢中になりなにがなんだか分らなくなります、定めし失禮なことを申上げたでございませう、平に御勘辨を願ひます』

吉田眼科病院

内科、小兒科 花柳病科 入院應需 藤沼醫院 平町紺屋町 電話平局五〇七番

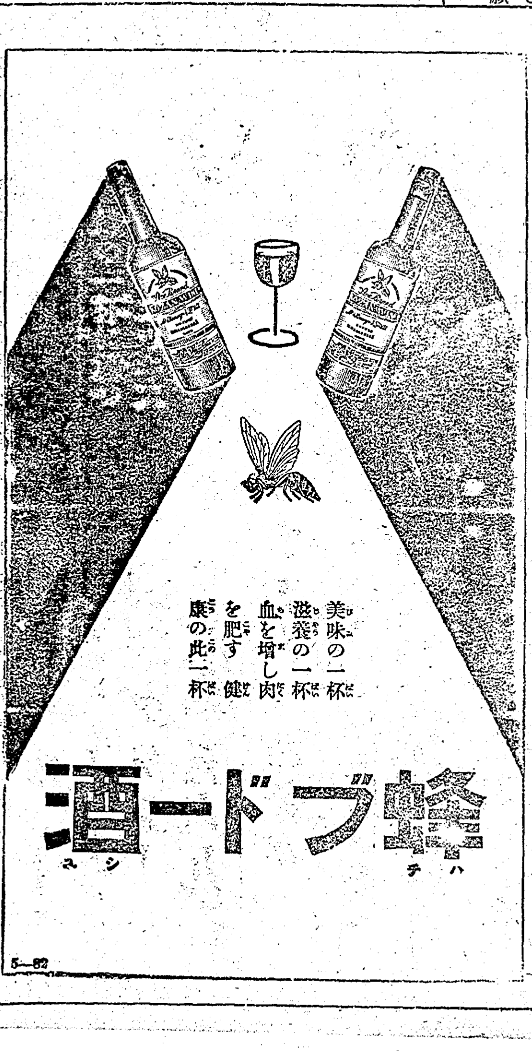
生花教授
池坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館 須藤まつの

平町田町 高久病院 (電話五一三番)
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
内科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 (久)釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

度量衡計量器 吸入用酸素 酸素吸入器
關内藥局 電話四〇番

特賣!!!
福島縣清酒品評會一等受領 たひら正宗
同優等賞受領 花春
醬油釀造元 鹽屋 山崎合名會社 (電話一〇番)



夜間診療
胃腸 梅毒
内科部 十二指腸虫病 專門
外科部 淋病 皮膚病 婦人病 專門
松村胃腸性病科醫院 (平南町電話一〇七番)

▲債權債務の整理引受を開始致しました
○品代金の取立て及貸金の取立引受
○全國各地の取立ても引受ます
○借金でお困りの御方の整理引受
▲資産、信用、人事調査引受
○全國、海外調査通信聯絡
○料金僅少御報参上
經濟の調査機關 商業興信所 (平局私書函六號)
平町字胡摩澤 電話二九一番

診察無料
如何ナル重患デモナオス本院デ特ニ今般眼鏡科の改良チイダシ檢眼無料デ確實ニ檢定シドンナ眼鏡デモ卽座ニ間ニ合セマス非常ニ便利ニナリマシタ是非御用命ヲ希イマス 博士敬白
平三 大谷時計病院 眼鏡科 電話十九番

鼻耳咽喉科專門 日本醫大院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科科長醫學士 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

愈舊歳末に當面して 決濟に惱む地方農村
種子代肥料代其他の催促が 例年よりも一層甚しい模様

舊の師走も愈々十六日となつた、暮れも正月も舊に於てはじめて本格的の氣分が乘つて來る地方人にとつて師走の月が峠を越したと云ふ事は其の間自づと心持ちを引き緊めさせらるるのも當然の事である、問屋筋と直取引の大どこは別として大抵の中小商店あたりではこの舊歳末を以て第二次の決濟期として居るばかりか背後に舊正と云ふ尤もらしい逃げ路があつた新の時とは異つて今度こそは數ケ月後のお盆迄は一時を糊塗する云ひ遁れの口實が絕對ないのでそれ等の連中が差し迫つた年の瀨を突破する苦辛たるや眞に文字通り血みどろなものがある、農家亦然り、百姓の正月は舊さばかり永い間の慣習から誰れ怪しむものもなくさきの正月には全然無風地帶の有樣であつた反動として米が廉からうが其他の農產物がどうあらうが種子代だ肥料代だ此方面に對する當込みの督促は世の中が不景氣である丈に一歩も假借する處なく常の年より一層嚴重にやつて來るのでその間の切り拔け策に就ては大きいければ大きい丈け、小さい處は小さいなりに夫々頭痛鉢卷きのていたらく眞に見るも氣の毒な程である

水道工事用 砂利紛紜 圓滿妥協成立

平町水道擴張工事に使用する砂利が契約當時のものと非常に相違してゐるとて最初の請負者である好間村と水道擴張部との間に紛糾が生じ結局は契約立直しとなるではないかと見られてゐたがこの程妥協成立し好間村では從前の契約通り水道部に納入することになり解決した

再た候大賣出しで 賑ふ平町商店街
貧弱な購買力に さても賑かな廣告戰術

前回の年末年始に思ひ通りの水揚げを見る事の出來なかつた平町の各商店では、今度こそはと手具脛ひいて待つてゐた舊の師走に愈々近づいたので各商店とも殆んと申し合せた樣に大賣出しの準備にかかり曰く吳服屋曰く瀨戶物屋さてはエロテックな藥の廣告など迄今朝あたりからの新聞折り込みは前回同樣紅紫とりどりの廣告戰でいとも賑々しく而も日を逐ふて一としほ盛んさを增すものと想像されるがさて肝腎の顧客の方が青筋立てゝ商人の張り込む程度に果して購買力があるがどうか今後個々の實際に就て見なければ解らぬ事勿論である

國税納入 不成績豫想
平税務署の觀測

去月三十一日が納期となつてゐる宅地租前年第二期分及第三種所得税同第三期分は本朝來各町村より平税務署へ納入されつゝあるのでその成績は明四日銀行よりの通知と郵便局納入の分とを綜合して五日頃には判明する筈であるが一部には舊年末の決濟に流用する爲の滯納も豫想されその收入步合に至つては恐らく不良なるを免れまいと觀られてゐる

農、漁、山村の 舊正月を潤す
待ち兼ねた救濟資金 十日頃から貸出開始

農家の窮狀を考察し舊年末まで貸附をなすべく努力してゐる失業救濟農、山、漁村臨時對策低利資金はいよ〳〵十日頃から貸附けを開始することになつたが舊正月まで佇附けることに對しては大分論議あり卽ち正月だからそれに間に合ふやうにするのでは飲んでしまふではないか等の意見もあつたが農民だつて正月には少し飲ませねばならず豫定の計畫に支障を來さず、またあまり表面に亘らぬ限り該資金を一時流用するのも大目に見やうとのことで結局成るべく舊正月に間に合ふやうに佇附けをなすべく努力することになつたものである

平財務協會 税務協議會
來七日平税務署樓上で 併て功勞者の表彰式

平財務協會税務協議會は七日午前十時から平税務署樓上に於いて開催さるるが主なる協議題は

一、新地租法（從來の課税標準たる地價を賃貸價格に改むる）が今議會に於て通過の形勢に在るを以て之れが實施に備ふる土地臺帳名寄帳等の整理その他準備事務の處理に關する件

一、既往二ヶ年に亘つて斷行したる無屆異動地整理に關し地租の追徵その他之れが後始末に關する件

一、徵收督勵に關す件

等で尙ほ當日永年國税事務に從事し功績少からざるの故を以て石川會長より表彰さるる役場吏員次の如く最長期は入遠野の折笠書記（二十年）上遠野の荒川收入役（十六年）であると

松本新治郎（平町書記）森山豐次（飯野同）渡邊新助（草野同）磯井伊助（大浦同）宮澤正已（四倉同）關場和一（平窪同）植野宏七（川同）白鳥宏弌（磐崎同）折笠武男（入遠野同）綠川敬一郎（田人組合同）馬目武助（勿來同）小野一男（錦同）久保木直亮（山田同）若松清彌（玉川同）永瀨國三郎（小名濱同）內山吉五郎（湯本同）小宅廣喜知（植田同）赤津新松（同）鈴木清和（豊間村收入役）高橋義男（大浦同）松崎由雄（平窪同）矢野清市（赤井同）荒川熊藏（上遠野同）大河原金之助（平同）

採みに採んだ 第三小學校道路 第一案に決定す
昨日の委員會で

採みに採んだ第三小學校通學道路問題は五年度内に於て遂に實施を見るに至らず今春迄持越すに至つた爲同方部兒童の通學上非常な支障を來し其筋に對する非難の聲が高かつたが昨二日午後一時より町役場內で委員會を開催種々協議打合の結果第一號案である西側現在九尺の作場路を改修し自動車の通行し得る程度に幅員を擴張する事に決定早速着工する筈で長らくの紛爭も茲に一解決を告げた

間接國税 反則減少
石城郡內の實績

平税務署管內に於ける昨年四月より九月迄の間接國税反則者を聞くに

△酒造税檢擧五告發一罰金五百三圓△麴税檢擧一罰金二十圓△織物消費税罰金二十圓△印紙税檢擧三百十八告發十一罰金千二百三十五圓

で此の合計檢擧三百二十六件罰金額一千七百八十六圓で前年同期の檢擧三百七十九名罰金二千九十六圓に比し成績比較的良好であつた

投檎 寄書歡迎

滯納整理の要諦

◇平町を中心に過般來大馬方をかけてゐる滯納整理の結果は余り香ばしくないときいてゐるこれは香ばしくないのが當然であつて滿足し得るやうな結果を豫期してゐたとすればそれは些か見當違ひだ

◇滯納額これ〳〵と聲を大にしてゐるが、その內容を見ると過年度收入といふのが、その半ばなのである、そして又その古い分を詳細に見るならば五六年前のものを始めとしてとうに欠損として處分整理してしまうものが可成り大きい數字になつてゐる

◇每年、每年、年度末は勿論一年中やいのく督促され、又差押されて居ながら四年も五年も拂へぬのは中には例外もあらうが拂ひたくとも拂へぬのだと思ふ、いやするいのは別だがその年の新らしいのさい滯納になつてゐるものが何で古いのに手が屆かう筈がないではないか

◇帳簿上に何處にも過年度收入として生かして置く理由は歲出歲入の辻つまを合はせる爲であらうが、飛び切りの景氣でも來ない限りはこの死んだ過年度收入が年々增加する共減少することはないだらう、これが町村財政をあやまる癌だ、空な數字を財源としてゐては財政上の欠陷は年々大きくなつて命取りになつてしまふ

◇この癌を根絕するには今が好機だ、とれる見込のある金額だけを殘してとても取れないものは整理處分して欠損としてしまうべきだ、決算に赤字が出ようと仕方がない、それは一時的なものでどこ迄もつきまとう癌よりは數等まさる、苦痛だらうが徹底的財政上の更生の爲めだ

◇競賣すると利益を得るのは二ゝ三文に買ふ古物商だけで町村の思ふやうに收入にならず千兩に編笠一介位のもあるからだと思ふ、競賣は第三者に利益するだけだからなるべくさけてその差押物件で他から金融させる法などはどうだらうか

◇それから滯納が之程あると鳴物入りで宣傳するのは考へ物で四苦八苦納税した人は馬鹿らしくなつて俺も滯納と云ふことになつてしまう、須らく町村當局自身が滯納を導くやうな結果になる事を避けるべきだと思ふ、滯納は恥にあらず寧ろ當然であると云ふ樣な觀念が納税者の頭に起つてゐるではないか（炉人生投）

早曉飛び込んだ怪漢 金五百圓を强要
發狂を裝ふ松原の疊屋 餘罪見込で取り調べ中

平町南町料理店寶屋事草野ハルヨ方に昨二日午前四時頃表硝子戸を打破つて闖入した一名の暴漢が金五百圓を貸せと大暴れをしてゐる旨訴へ出でにより平署員三名急行し暴漢を引致取調べの結果右は自稱茨城縣多賀郡松原町石瀧畳職柴田安次郎（二〇）で精神異常者を裝つたが署員の烱眼に看破され餘罪あるらしく目下嚴重取調べ中

官公吏減俸 請願採擇
本縣と高知縣から提出した

福島縣並に高知縣から出てゐた官公吏減俸に關する請願は二日請願委員會に於て紹介議員大島要三君ならびに下元鹿之助君からそれ〳〵經濟界不況の結果一般民衆の收入激減を理由として說明し、これに對し小川大藏政務次官より減俸に對する徒來の經緯を述べ昭和六年度に於て行政財政整理委員會に於て然るべく研究すべく說明し結局滿場一致採決になつた

社民黨支部 救援部の活動

社會民衆黨磐城支部では既報の如く救援部の事業として過般町內に救援袋を配り貧民と失業者の救濟資金を募つてゐたが此の程五十七圓餘（三百口）の現金が集つたので近く幹部會を開き之れが處分方法を協議の上適當に配分する筈であると

大凧を唸らせて 超尖端の火防宣傳
錦少年消防の活躍

錦村消防組頭山崎登氏は就任以來年來唱導せられた少年火防隊を縣下に卒先組織し本縣消防史を飾つたが、更らに氏は同少年火防隊の火防思想普及のため去る六日縣下一齊の火防デーに障子程の大凧に『火の用心』と記して上げる筈で計畫されたが折からの降雪にさまたげられた折角の計畫もその儘となつたがその後每日この大凧を揭げてゐるが少年達は面白さに箭つて出動し大凧はウナリ音勇ましく錦村上空に火の用心を宣傳してゐる、尙ほ山崎組頭は各分隊各部落一個宛の大凧を寄贈し火災期中同隊に空中宣傳させると

川前の空トラック 列車に飛ばさる
車体を大破して 運轉手は奇蹟的に無事

川前村字川前永山忠治方雇運轉手大石菊雄（二九）は一日午後八時二十分頃空トラックを運轉同村五味澤街道鐵道踏切に差しかかつた際磐越東線上り旅客一六列車が進行して來たので逆行停車し列車の通過を待つて居たところ自動車の前部が線路內に少し出てゐたので列車に觸れ跳飛ばされ大破したが運轉手は幸ひ怪我は無かつた

五十錢と米八合
生業資金貸出し無料診療券 同潤會年末救濟決議

平同潤會では昨二日午後七時より町役場で協議會を開き舊年末貧民救濟に關し協議の結果平署人事相談所と協力して町內在住貧民四十世帶百四十二人に對し一人宛金五十錢白米八合平均を給與すること及前記貧民に對し行商其他生業に就く者に對して生業資金として一口金三圓を貸與し利益金中より一日金五錢を返戾せしむる事前記貧困者にして疾患に罹り醫療を受け得ざる者に對して無料診療券を交附して治療を受けしむること及寄附金採納に關する件を決定實行する事となつた

小柳知事 來平
五日歸廳豫定

小柳知事は今三日來平明四日平町補習學校を視察し五日には平第一小學校の濱通校長會議に臨み同日午後三時三十分歸福の豫定である

死胎を遺棄

植田町後六四六中村いし（二〇）は昨年四月中同町瀧川左官職加瀨四海（三）と情を通じ妊娠本年一月十九日主家の便所內で分娩その儘にして置いたのをこの程發見屆出により植田署で死體遺棄罪として取調中

赤井颪

◇落語子曰く 若い妾は旦那を若くしようと白髮を拔いてくれる、糟糠の老妻は又餘り若やいでるから浮氣がやまぬと黑い髮を拔く、好い氣な旦ツクか、其親切に恐悅してる間に、人情の然らしむるところ、藥鑵の光らしむる處テル〳〵坊主になつたとサ

◇なるほど、そんな頭は平町にもある世今は凍つてるが春になつたら芽を吹くよどキヤベチと間違つてやがる

◇或る男がお宅に○○君が來でませんかと聽いたものだ、處が『家にはそんな人は居ても居ませんよ』と障子の蔭から女の聲が怒鳴つた『此處に居る時はアタイの大事な旦那なのだから他所のソンナ旦那なんぞ一人も居ないことよ』問題の旦ツクは皮をむかれたキベツチを長火鉢の向ふに据へてニヤリ〳〵『お前は情があるよ……』

配達少年募集
（希望者午後三時より面談）

辭令

磐城高女敎諭 佐藤清 敍勳八等授瑞寶章

平町人事

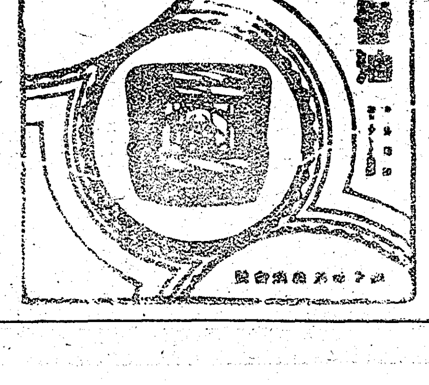
△出生 櫻町一岩瀨郡梓衛村大字木之崎七日雁業木之崎善夫長女郁子 胡摩澤一一三鐵道員落合富司長男定雄

廣告

上田外科醫院 院長 上田耕作 平町南町電一二九

內科、小兒科 外科一般、婦人科 外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原卯太郎 市原陸郎 市原三男
平町田町本通 市原醫院 （入院隨意） 電話一一四番

特約店 平町田町 廣瀨支店 電話五四番



學生外套特賣
酷寒・强雨ニモ耐へ生地 型・仕立百パーセントの 黑ラシャ外套特價提供
中學用（極上）8圓50錢より
小學用（同）5圓50錢より
全部頭巾付
あかや洋服店 平二 電2□

特約販賣 治療部
福島縣平町五丁目二八 志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九 產婆 關口悅子
『溫灸治療法』百三十頁の美本無代進呈
ラヂウム溫灸器 胃腸病の必治法 二貫や三貫らく〳〵肥る世界的健康法

貸切●●● 御用命は！ 新型ランドーセダンの 磐城タクシーへ 電話五六九番